

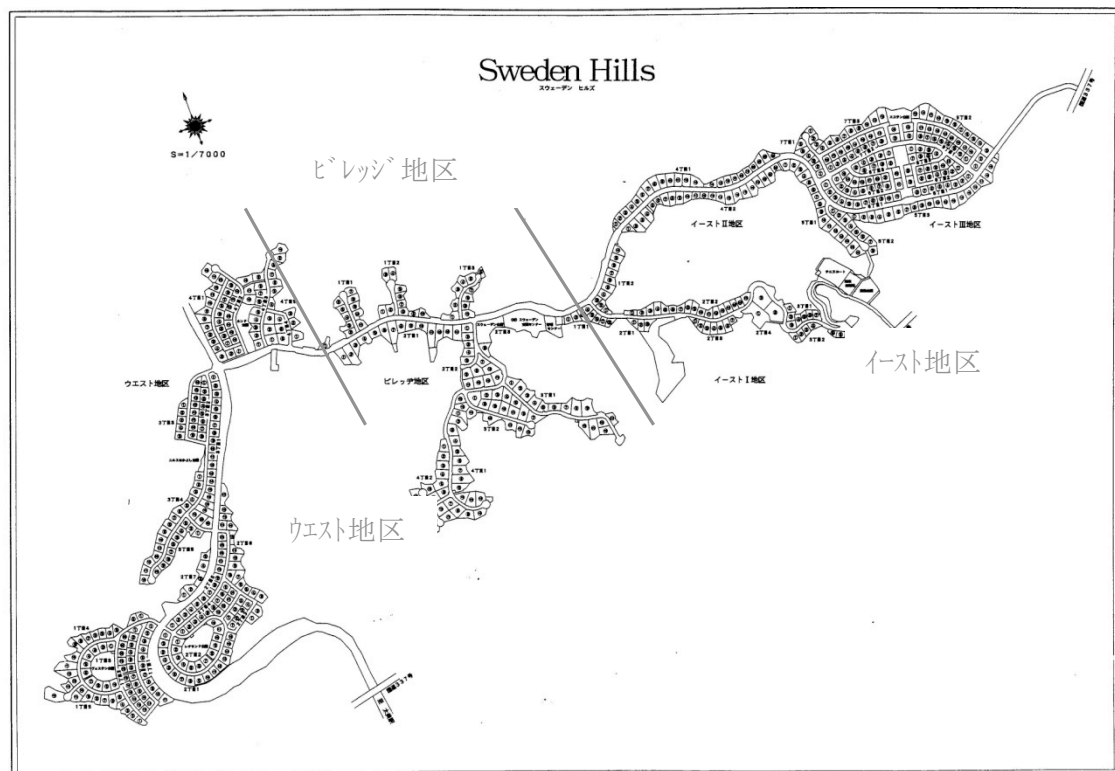
歴史と街づくり活動の経緯

1. まちなみ形成の時期

スウェーデンヒルズは、「人と自然が豊かに調和する」理想の北方圏型住宅地を目指して昭和60年分譲がスタート。開発面積は、約63ha、総区画数は、約700区画である。住宅地は、雑木林で囲まれ、隣接するゴルフ場と共に緑あふれる住環境を造り出している。

- 1) まちなみは、平成7年から平成8年にかけて形成されてきており、現在までに500区画が分譲され、住宅建築が進んでいる。
- 2) ビレッジ地区、イースト地区に続いて、ウエスト地区の分譲が進んでいる。

<スウェーデンヒルズ全体図>



2. 活動の開始時期と活動の経緯

1) 昭和63年～平成4年までは、地区内の維持管理の業務を行う管理組合が結成された。平成5年には、従来の管理組合を改廃して、町認定の町内会組織が発足、管理組合の業務を引継いで現在に至っている。町内会々員は、建築、未建築並びに定住、非定住にかかわらず、土地の所有者全員が地区の維持費の負担を公平に分担するとの趣旨で、1区画当たり年間6万円の町内会費を負担し、おおよそ1万円を行事費に、5万円を維持費に充当して、地区内を高度に維持管理する事となっている。

2) 建築協定は、北海道と気候風土を同じくする、スウェーデンとの生活、文化、経済等の交流を通して、自然と人間の融和を目指したスウェーデン風住宅地としての住宅環境を高度に維持増進する事を目的としている。当地区の建築協定は、昭和60年に開発がスタートした時には、デベロッパーによる1人協定でスタートしたが、現在は、デベロッパーの手を離れ土地所有者全員による総会で選出された十数名の運営委員によって建築物件の審査、指導等が自主的に行われ、北欧風の街並みが美しく保たれている。

